

○議長（武石善治） 次に4番 佐藤真二君の発言を許します。4番 佐藤君。

（4番 佐藤真二議員 一般質問席登壇）

○4番（佐藤真二） 議長の許可を得まして質問させていただきます。今回の質問は4点ほどありますが、昨年の6月議会で質問いたしました質問の検証も兼ねておりますので。

まず、1つ目の質問であります。村長が今任期中に民営化にするとしている杉風荘の受け手である社会福祉協議会、以下社協と述べますが、会長についてですが、現在、村長が会長を務めております。昨年も質問をしましたが、杉風荘のトップが村長で社協のトップも村長であります。それで社協に移譲することにして物事を進めています。

村民の素朴な疑問としては、村長が会長を務めていて本当に民営化と言えるのかと、私はよく訊ねられますが、私自身もそのように思います。なぜなら、社協の職員も公務員に準じているわけであり、また、そのトップを村長が務めているのでは、村民から見ますと民営化と言い難いものがあります。

また、会計士に尋ねましたら、福祉事業の中では、収益が一番上がらないのが特別養護老人ホームだそうです。ということは、今後、様々な問題が発生してくる可能性があります。社協として村にお願いしなければならないことが多々あるかと思えます。お願いする側の代表が村長で、それを判断するのも村長です。村民から見ますと、何かすっきりしないのは当然だと思います。一般的に首長を団体の長に据えておく目的はほとんどの場合、自治体から資金を引き出すために長にしているわけであります。

杉風荘を受け入れた場合、社協には、1年でも早く村の財源に頼らず運営していただきたいものです。現在、時代も変わり村長が会長職に付いて運営できるほど簡単なものではないと思います。村長自身も、これからは社協自体真剣に収益をあげることを考えなければ潰れる社協も出てくるだろうとよく言われています。そのように話をしている村長が、今年、3度目の社協の総会でも替わらず会長を続けています。民営化というのに、そこに村長が会長としているのは、村民は不思議に思いますが、村長には村長の考えがあるのかと思いますので、村民の皆さんにご理解のできるよう、ご答弁お願いいたします。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 佐藤議員の村長が社会福祉協議会の会長を兼務することについて、ということでご質問がございました。

行政報告でも申し上げましたが、杉風荘の民営化については、平成27年4月1日に上小阿仁村社会福祉協議会に移管することでプロジェクトチームを立ち上げて対応しております。

民営化のメリットを最大限に生かし、利用者の利便性、サービスの向上のために杉風荘の経営内容や職員体制、採用人事、異動等協議を重ねているところでございます。

移管計画の策定後には、有識者等を交えた民営化実施審議会を設置して、審議をしていただくこととしており、最終的には、条例等の改正も含めて議会に判断をお願いすることになりますので、よろしくお願いいたします。

さて、佐藤議員のご質問は、村長が会長を務めているのでは、本当の民営化と言えないのではないかとのご質問でございますが、前にも申し上げましたが、社会福祉協議会の会長は、村長が務めなければならない、いわゆる当て職ではありません。理事会での選任事項となっておりますので、任期で理事会にはかり判断されればいつでも替えることができるようになっております。

ただ、そうは言っても村の社会福祉協議会は、村の福祉関係団体の会長や地区の代表になっていただいているのが現状でありまして、理事長他全て理事の皆さんには無報酬で引き受けていただいております。会議の度に会長を除いた方々には出務日当をお願いしてきていただいております。現状は無報酬で理事を引き受けていただき、理事長として責任ある経営まで引き受けていただける方がおられればベストであります。なかなかことが進まないために、やもを得ず私が引き受けている状況であります。

しかし、今後、杉風荘を運営してゆくためには、運営資金の調達と、人事の配置などスタートから理事の方々に大変な負担がかかってまいります。そうした意味で理事に簡単になっていただけるものなか、心配な面も多々ございます。

民間としてのメリットを生かし、さらには公的役割を担って、利用者には公平な利便性が求められると思います。企業感覚の経営能力や接遇、人材育成などに優れた人材が必要になるのではないかと考えられます。専務理事制度にして、村長は施設の運営までは関わらない方向で考えておりますが、人材確保が一番問題になるのではないかと心配いたしております。

村長がならなくてすむのであれば、これにこしたことはないわけです。皆さん方も、村長がなぜなるかということだけではなくて、こういう人がいいのかわからないのかなど、こういう人がおりますよというふうな形で、やはり質問をするべきではないのかなど、私はそう思います。

以上でございます。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） 答弁ありがとうございます。今の村長の意見を聞きますと、替えなければならないということはわかっていても替えないと。替えなければならないものは替えるべきです。その方々、理事をしている方々には責任があります。トップができるかできないかは、村長が辞めれば誰がトップをや

るのですか。運営協議会は、社協はなくなるわけではないです。やはり替えた方がよいと思うものは替えなければなりません。この上小阿仁村 2700 人です。人材がいなければ物事をやっていけない、だから私がやっているんだと。もし村長に替えなければならないという考えがあるのであれば、やはり進めなければならないものは進めなければ前に進みません。

今言われましたように、我々もそれなりの人材を探します。ただ、やはりこれから村が村として頑張っていくためには、少しでも財政、緊縮財政でいかなければなりません。そのためには両方のことがわかるような村長では、果たして、社協が本当に努力するのでしょうか。本当に努力して村にお願いしなければならないものであれば、これは村も協力しなければなりません。ただ、社協の立場もわかります。村としての立場も考える。それでは、本当に自立とは言えない。民営化とも言えない。どちらも、杉風荘も社協も、そしてこの村も残さなければなりません、そのために村長は、社協の会長を降りなければならないとわかっているのであれば、やはり頑張って降りていただくしかない。ただ、今回、まず村長が降りる決意があるということをおわかっていただだけでもよかったと思います。

これについて村長は、任期中に杉風荘を民営化すると伝えておりますが、任期中に、もし杉風荘が民営化になった時に、民営化なってもまだ村長は会長を続ける覚悟ですか。人がいなければ続けていくと、そこをお聞かせください。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） お答えいたします。

私は、好きでなっているわけではないのですけれども、それでも評議委員会、役員会、理事会、推薦があればやらざるを得ないわけです。自分が理事の方をお願いをし、出席をしていただいている中で、私はできませんよ、ですから貴方やってくださいと、これですむのであればいいわけですが、そういう状況をつくらないうちは、やはり自分で頑張るしかないのではないのかなと。今、そう思っています。ただ、杉風荘の民営化というのは、村長の兼務ができるような職務ではない。そのことは私が十分理解しておりますし、社協も、これからはそういった形でなく、キチットした独自路線で頑張っていただきたいというふうに思っております。私になってから補助金などもカットしてきました。やはり職員体制も、今までの甘えをキチットただしていかなければいけないということで進めておりますので、私が、何でも中田吉穂ができると思ったら大間違いですので、私は自分のできる範囲というのを自覚しながら進めていきたいと思っております。

その点は、心配なさないで、ただ、この理事長というのは、やはり簡単に

誰でもできるというふうな状況ではないと思います。まず、最初からお金の調達を始めなければいけません。杉風荘、社協もそうですけれども、最低2カ月分の回転の資金は金融機関から調達をしていくことが最低条件であります。誰がやるんですか。5千万、6千万の借金を自分の事業でないものに、そういった心の広い福祉に理解のある方がいなければ、この事業も大変厳しい。そのためには、もしない場合には行政が支援をしていくことも考えていかなければいけないかもしれません。そういったときには、議員方が頼りですので、そういう支援のあり方も検討を加えてもらおう。そういった方、公募も必要になるかもしれません。

簡単に誰でもいいというわけにはいかないと思います。借金をしなければ、企業ですので借金をして、それからスタートしていくということを十分理解したうえで引き受けていただくということが必要になると思います。

以上。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） 答弁ありがとうございます。

先ほど村長が話をしましたが、努力をして村の補助金を削減しているのはわかっております。ただ、民間の一般の方々からみれば、やっぱり村長が会長を務めているということは、これは民営化と言えるのかというのが一般的な疑問でありますので、ではなぜ村長が会長を務めているのか。これは我々がどうのこうの言うより、村長の答弁をはっきり聞いた方がわかりますので、ただ、現在の村長の意志がわかりましたので、まず、ありがとうございます。

では、1つ目の質問をこれで終わります。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） 続きまして2つ目の問題です。

これも昨年に質問しましたかみこあに観光物産の代表についてです。

かみこあに観光物産株式会社の社長の件であります。去年は道の駅も大変な時期であります。社長の交代の考えがあるのか伺いました。今回は別の方から伺います。

村が100%出資している会社ですので、代表についていても何ら違法ではありません。他町村でも例はたくさんあります。私が今回聞きたいのは、かみこあに観光物産株式会社の社長である中田吉穂本人が、他の町村と違って実際に経営に携わっているということに問題があるのではないかとということです。

社長は村長になりましたので、中田吉穂個人が社長として宛職で会社に代表として入っています。社長は、本来代表であっても役員の見を集約して、代表として実行するのが村長を社長にするという意味だと思います。ひとつの例を取っても、今回の支配人の解雇も村長個人が、社長、中田吉穂個人が先に口

頭で言い渡してから、そして数日後に役員会を開催しております。

結果的に同じになったとしても、本来役員会が先で、その意見を集約して代表である村長が発行するものだと考えます。この1つを例にとっても、村長個人がもう会社を経営していると同じであります。先ほど、長井議員から出ましたが、村長が別に口を出して会社を経営する、これに対して、村長自身がどういうお考えをもっているか、この1点だけお伺いいたします。よろしく願います。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） お答えいたしたいと思います。今日3回目になります。その社長として、この壇上で答えることはできません。これはもう伊藤議員のときから同じような繰り返しでございます。あくまでも、登記上は個人が社長登録、印鑑証明で登録しております。株主は中田吉穂上小阿仁村という形になっておりますけれども、社長としての登記は中田吉穂が登記になっているわけです。ですから、それも個人としての登記になっております。ですから、そこら辺が皆さんまぜこぜになってしまっていると、株主は村なんです。上小阿仁村。

ですから、どういうお答えをしたらいいのか、大変迷っております。いろいろ一部の人から訴えが、皆さんの方に入っていると思いますけれども、なかなか私の方から、それに反論するものが発信できないということで、大変、ここまでくるのですけれども、それを押えながらご答弁をさせていただきたいなと思います。

まず、第三セクターであるかみこあに観光物産の関係でございます。

この道の駅構想が浮上した当時に、村議会でも遠くまで足を延ばし研修をされ、また商工会や商店会など協議機関を設け、テナント方式なども検討されたと聞いておりますが、しかし、残念ながら当時は投資する形を取れなくて、村だけの経営形態となったと、私は記憶いたしております。

そのため、村で資本金100%出資され、村の産業の振興に役立てることを、目的に設立された会社であると認識しております。村の政策と連携し協調を図っていくことで、この施設を役立てていく必要があると私は考えております。

村の特産品の販売は、村民所得の向上と関連しており、重要な役割でもあります。それだけではなく、村の観光の拠点となり様々な情報発信も行ってきております。村の産業課の商工企画と連携を図り、地域の特産物の6次産業化への取り組みや、地域を活性化する賑わいイベントなど、昨年は大地の芸術祭の飛び地開催地として、このプロジェクト秋田が八木沢で開催され、多くの方で賑わっていただきました。その案内基地としても役割をもっていたいただいております。

ます。こうした意味で、皆さんが何を意図として質問されているのか、私には、なかなか理解できないわけです。

道の駅、この観光物産というのは物を売る支配人が首になった、採用になった、こういった問題のことではないはずなんです。この道の駅をどうやって活用して、そして、地域の活性化につなげて行くのか。そのことが、私は一番重要ではないのかなと思っております。無報酬なんですよ。給料をもらっているわけではありません。皆さんもご存知だと思います。社協も無報酬なんですよ。日当も何にもないですよ。責任だけは重くのしかかっている。それだけは皆さんにお知らせしておきたいと思います。

村長であるために、そういう役割もやらなければならないという中で、もちろん、力不足、認識不足もあります。ですから代わりの方が出てくれればいつでも交替をしたいと思っておりますので、適任者を皆さんの方からでも、私の方に紹介していただければいいのかなと、自分なりにいろんな金融機関とか、いろんな方面にお願いをしております。まだ、はっきりとしたお答え、人選ができておりませんので、もう少しかかるとは思いますけれども、ただ、いなければいらないなりに職員が自分の仕事を広げてやれるのです。今、現実に前よりも職員が一生懸命やっています。あの人がいなければこの家は潰れると、そういうものではなくて、やはり必ず自分方がやらなければいけないと、初めてなっただと思います。自分方がやらなければやる人がいないのだと、そういう気持ちになって、一生懸命頑張っている、そういう従業員の姿も、皆さんに見ていただければありがたいなと思います。

○議長（武石善治） 4番、私は議長として答弁された方が着席するまでは、いくら手を上げて指名しませんので、逆に答弁があっても、議員の皆さんに言いたいと思いますが、やっぱり答弁者が着席するまで、何回もハイ、ハイ、言われでも指名しませんので、着席した段階で指名します。はい、4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） 答弁ありがとうございます。

私が村長にお聞きしたかったことは、会社の経営者の社長として、その会社が、今、どういうふうな状態にあるかというのは私には関係がないことです。今回の質問は、先ほどの伊藤議員とは立場が逆で、村長自ら叱咤激励をなさという意味ではなくて、逆に宛職でありますので、代表は、これはいたし方がありません。ただ、中田村長として、この宛職で社長をやらなければならないと、これに対してどのようにお考えですかと、私は単刀直入に聞いたわけです。

ただ、その事例の1つとして、たまたま事例が悪かったのか、申しわけないのでけれども、村長が社長としての行動を取っている。もう本来の民間の会

社と同じことをしている。そういう意味で話をしただけで、社長としては、先ほど少し触れました。好きでやっているわけではないと、もし誰かがいるのであればやっていただきたいと。これは本来であれば道の駅のためにも、もし交代の気持ちがあれば、村長のためにも早めに進めるべきであります。私はそう思います。

村長、どう思いますか。お願いします。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 村長の立場でものごとは話をすることということで、村長が社長を首にするといえ、それもまたおかしなことではないのかな。私は、この道の駅、かみこあに観光物産というのは、村長が必ずやらなければ、社長にならなければだめだということでもないと思います。ただ、今まで1億1,200万円がなぜ村に利益として入ってきているのか、そういうことも考えてほしいと思うのです。

歴代の村長が、なぜ自分で社長をやってきたか、利益を村に返すことができる、そういうことなのです。これが外部からとか、出資金を集めてしまえば、これはできなくなるわけです。今、赤字に転落して、では村で引き上げますよと、半分は、2,500万円は民間から資金を集めましょうと、こう言った時に、どれだけの資金が集まってくるのでしょうか。私は、かなり厳しいと思うのです。高速道路が、二ツ井から北空港、北空港から大館、それから小坂まで、こういうふうに道路の延伸がはっきりと道筋がついてきました。こうした中で、これからこの285号線を通る車両が増えればいいんです。やはり今までのいろんなことを勘案しますと、道路を走る車の数に売り上げは連動してきているのです。データを見ればすぐわかるのです。

去年、一昨年は、高速が無料化になりました。そうしたら300万、400万円という赤字はすぐに出してしまうのです。ですから、そういったことを勘案しますと、どっちがいいのか。今、こういう第三セクターで全国でも経営難に陥っているところが一杯あります。経営難になれば公費、税金を投入するという形を取らざるを得なくなるわけです。ですから、今、頑張っていけるうちになんとかしてやっていければなど、私は、とにかく任せる人を探しているということだけを皆さんにお知らせして、この質問のお答えとしたいと思います。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） 今の最後の村長の言葉で、私が聞いたかったのは、中田村長として、首長が会社を経営することをどのように考えているのか、これに対して、最後の村長の言葉を聞きましたので、会社の内容とかは、社長としてそれは聞きません。

これで私の2番目の質問を終わります。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） 続いて3つ目の質問ですが、これも昨年の質問に関連しています。3つ目の質問は、五反沢山野草愛好会の支援についてであります。村長は昨年の答弁で、山野草愛好会の負担を軽減して、村としてできる限りの協力をしていくと答弁しております。

この村にとっては、一番外貨を稼げるイベントを開催する山野草愛好会。今後も村にとっては大変重要な団体です。彼らは自らの資材を投入して頑張っております。また、愛好会のメンバーが高齢化もしてきています。

昨年質問しましたのは、このように村にとって貴重な団体であります。個人努力では限度がありますので、何か村として応援をしていただけないものかと思ひ質問いたしました。

そこで伺いたいのですが、どのような支援をして、また、23年度と24年度の違いが何かあったのか、分かりましたら教えてください。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 山野草展示会の支援についてのご質問でございます。23年度と24年度の違いというふうな質問でございますけれども、そうなりますと詳細事項を質問に書いていただければ、この点についてキチットしたお答えができると思いますので、できたら、この次からでも質問事項は詳細を書いてもらいたいと思います。

そうは言っても何も答えなければ、まずいなと思いますので、私が、昨年度、24年度に村で支援したことについて述べさせていただきたいと思ひます。

五反沢山野草愛好会への支援についてのご質問にお答えいたします。

毎年5月に生涯学習センターにおいて山野草展示会を開催しております五反沢山野草愛好会の皆様には、山野草展をとおして地域活性化にご尽力いただき深く感謝申し上げます。また、開催のたびにご協力をいただいておりますボランティアの方々にも合わせて感謝を申し上げます。昨年度は、かみこあに観光物産へ展示会の開催を委託し、6月から10月まで秋田杉の館を会場に計5回開催いたしております。

開催実績の委託料は、出店業者の収入を差し引いて20万9,679円となっております。委託料の中から直接五反沢山野草愛好会に支出されておりますのは、車借上げ料1万5,000円となっております。開催に関わる経費は消耗品、ポスター印刷代、広告等で21万9,679円となっております。村では、直接支出には表れませんが看板の設置、展示品の搬入や搬出、会場準備等を手伝わさせていただいております。山野草展示会には、毎年、そして毎回多くの方が遠方からも



訪れ、村の活性化と道の駅の賑わいに貢献していただいております。愛好会の方々も高齢化してきておりますが、年齢を感じさせないような情熱で頑張っておりますので、今後とも村として開催に支障の出ないよう支援してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） 質問の内容が記載されていないものがございまして、申しわけございませんでした。

昨年質問をいたしましてから、この愛好会のことを、今回また質問いたしますので、愛好会の方に行き、何か役場から前の年と変わったことがありましたかと確認しましたら、全然ありませんということでしたので、つつい 23年度と24年度の違いは何かあったのかと、向こうの方だけでなく、行政としての立場の方も聞いておかなければならないので。ただ、私がお願いしたいのは、村長も認めていますように、村にとっては必要な団体であります。民間団体ではありますが、もし行政として支援できるものであれば、いろんな形があると思います。山野草の展示会のみではなく、それを作るために大変苦慮しております。そういうものをもっと行政で目をとおして、何か必要なものはあるのではないかと思いますので、そんな高額な費用の掛るものではなくて、村として微々たる物でもあれば、やはりそういう姿勢が村にあれば助かると思いますので、そういうのを検討していただきたいということで質問いたしました。

これで私の3つ目の質問を終わります。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） 最後の質問になります。

KAMIKOANI プロジェクトあきた 2013 であります。今月の村の広報の最初の見開き2ページを使ってイベントの流れなど載せておりましたが、昨年同様いまひとつ村の盛り上がりを感じられません。これからだと言われればそれまでですが、2,100万円の予算を投じて行うにしてはあまりにも情報が少ないものです。行政報告でもありましたが、4月30日以降は実行委員会が開催されていないようですが、村と県ではそれなりに打ち合わせなどしているものと思われまます。昨年開催して反省点なども多々あったかと思われまます。今回は反映されているのでしょうか。ご答弁をお願いします。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） お答えいたします。

昨年度は、大地の芸術祭の飛び地開催として、この KAMIKOANI プロジェクト秋田が八木沢で開催され、多くの方々からご協力をいただき盛会に終えること

ができました。感謝を申し上げます。

昨年度は初めての開催であり、期間も長く、イベントも天候にも恵まれ、多方面から多くの方に来て喜んでいただきました。

今年度は、文化庁などの補助金を活用させていただき、更に拡充した取り組みをしたいと関係者が構想を練っているところであります。こうした取り組みは、議員が心配されるように地域の盛り上がりが必要なことであり、広報やチラシ等によって情報発信し、その内容と住民の参加と協力をお願いしているところでございます。

今年度は、8月10日から10月14日までの66日間にわたって行われることが決まっております。4月30日の実行委員会において、概略の計画は決まっておりますが、詳細の対応については県の担当、また公立美術大学の芝山先生の指導の基に幹事会において協議を進めております。

また、これに関しては毎日のように協議を、庁舎内、そしてまた県との打ち合わせを行っているのが現状でございます。昨年以上に住民の皆さんに参加していただけるように6月20日には関係団体への説明会、6月30日には旧沖田面小学校、7月7日には八木沢地区でのボランティアによる清掃ワークショップを計画しており、こうした準備に多くの方が関わり盛り上げていただければと考えております。

展示作家の作品数やイベントの内容など、交渉が必要なため、まだまだ未知数ではありますが、今後、決まり次第お知らせしていきたいと思っております。

今回は、八木沢集落だけではなく、沖田面地区には、展示作家が滞在し、作品を制作するほか、地元の住民との交流を深めることにしております。

また、武蔵野大学からお話があり、担当者が来村して、学生の実習の打ち合わせもしており、各集落でのボランティア活動や八木沢集落でのプロジェクトの実習など地域交流を予定しております。学生については、住民の方々の家に宿泊をお願いして、農作業の手伝いなどで田舎暮らし体験など、ご協力いただきたいと考えております。住民の方々により多く参加いただき、村の将来につながるイベントとなるよう、内容やスケジュール、協力体制について、周知を図るよう努めてまいりますので、何卒ご協力をお願いいたしまして答弁いたします。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） ありがとうございます。私の質問の中に、開催までの今後のスケジュールも出しておりましたが、開催ではなく予算の方で、予算を組んだ時に、確か100万円ほどは地元企業や個人の協賛の予算をみております。しかし、今だに、そういう話は村の方から村民には聞いていないと思いますけれども、そのスケジュールというのはどうなっているのか。

○議長（武石善治） はい、村長。

（中田吉穂村長 登壇）

○村長（中田吉穂） 詳細については、担当の総務課長の方からお知らせいたします。

○議長（武石善治） はい、総務課長。

○総務課長（小林悦次） 私の方から簡単に説明をさせていただきたいと思いません。

2,100万円の歳入の内訳としましては、文化庁の部分について1,000万円、それから450万円について県、それから村ということになっております。それで、残り100万円の部分については、いわゆるスポンサーをお願いして寄附金等を集めて対応したいというふうな部分と、それからイベント中におけるグッズ等の販売の収入を当てております。それからこの寄附金につきましては、県の方とも今打ち合わせをしております、村内だけではなくて村外の方からも、こういうイベントに係る寄附金を募りたいということで、細部についてはまだ進行中あり、打ち合わせをしている状況であります。ですから確定次第皆さん方にお伝えをしながらご協力をいただくということにしております。

それから、広報における周知につきましては、6月からの広報に、今回初めて掲載をさせていただいておりますけれども、これにつきましては、毎月シリーズ化にしまして、確定しているものを順番に、皆様方にお伝えをするということと、IP電話等も含めてできるだけ住民の方々に参加をしていただきながら盛り上げていきたいということで対応していきたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願いしたいと思っております。

○議長（武石善治） 4番 佐藤君。

○4番（佐藤真二） ありがとうございます。村外から、また地元からでも少しでも多く集まるようにご努力をお願いいたします。

最後であります、この2,100万円ほどかけてやるイベントであります。

本来、私らが今まで見てきたイベントというのは、やはりそれなりのお金を掛けたら、それなりの経済効果がなければ、なかなか継続はできません。しかしながら、この村にとって2,000万円をかけて2,000万円をこの村に落とすということは大変難しいとは思いますが、しかし、少しでもこの村の収入につながるように、そして村民が1人でも多く参加できるように、村として心配りといいますか、簡単に言いますと、我々の年代からはアナログ派でございます。パソコンの中を見れば素晴らしい写真も一杯入っています。しかしながら村内にはひとつもこういう看板はありません。やはりパソコンだけを頼りにするのではなくて、地元の人に参加していただくのであれば、地元の人にもう少し周知できるようにしていただきたい。先ほど話したように、やはり地元理解されな

いイベントというのは、なかなか継続するのは難しいと思いますので、することは大変いいことだと思います。これから本当に皆さん頑張ってやっていただきたいと思います。

そして、先ほどお願いしたように少しでも村が良くなるように、村長自身も頑張っていたきたいことをお願いして、私の一般質問を終わります。

どうもありがとうございました。

○議長（武石善治） 以上をもって一般質問を終わります。